

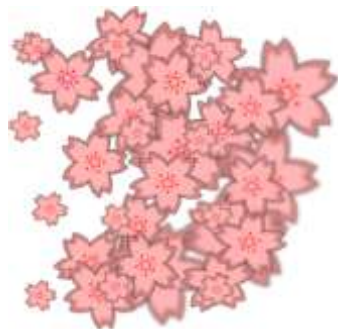
# ♪ 2016年度 poco a poco ♪

Nr. 2 2016年4月25日(月) 文責: プファイル・辰巳

## 春・・・生命の息吹

満開の桜の時期が過ぎ、木々の緑が日に日に濃くなっていくような気がします。冬枯れの色彩の乏しい時期の後、木々や草花が一斉に芽吹き、咲き乱れ・・・自然界の生命力の力強さに圧倒されそうになるのが「春」という季節です。

そして、日本人学校の校舎にも、同じように生命力にあふれた子どもたちの姿・声に戻ってきました。子どもたちのいない長期休業中の校舎は、暗く寂しい感じがしますが、今は毎日、教室にも校庭にも子どもたちの元気な姿が見受けられます。そして音楽室にも、子どもたちの元気な歌声が戻ってきました。1年間、楽しく元気に、歌声を響かせたいものです。



### 音楽鑑賞会

先日、別紙にてご案内した通り、今年は5月4日水曜日に、日本からAUNJクラシックオーケストラをお迎えして、和楽器の演奏をみんなで一緒に聴くことになりました。

AUNJクラシックオーケストラは、和太鼓や三味線、横笛など日本の伝統楽器を使って、さまざまな曲を演奏されるグループです。

和太鼓は近年、ヨーロッパでも注目を集め、各地に和太鼓グループが設立されたりしています。コンサートホールでも、和太鼓の演奏会が開かれたりします。

とはいえ、やはり日本を遠く離れたの外国暮らしの皆さんには、まだまだ馴染みの薄い和楽器もあると思います。今回は、一度にいろいろな和楽器を聴かせるだけのお楽しみ機会です。お楽しみに！！

保護者の皆さまも、この機会にぜひ、お越しください。



## 音楽こぼれ話 <あの町、この町、音楽家が住んだ町 ①

### アイゼナッハ ～ バッハの生まれ故郷>

現在ドイツにお住いの皆さんは、ヨーロッパ各地を旅行され、あちらこちらの町ですでに、音楽家たちの足跡に出会われたことがあると思います。生家が残っていたり、お墓があったり、博物館が設立されていたり・・・なので、もうご存知のこと多々あるとは思いますが、この紙面では、ちょっとマイナーな情報も含めて、音楽家の足跡をシリーズでご紹介できたらと考えています。

第1回は「音楽の父・ヨハン・セバスチャン・バッハ」の生家がある町、アイゼナッハ(Eisenach)です。アイゼナッハは、フランクフルトから北東へ車で約2時間、カッセルとワイマールの間に位置する町です。1685年、J.S.Bachは、この町で生まれました。そして、その生家が残っており、近年、大改築されて、立派なバッハ博物館となりました。博物館では、バッハの時代に活躍した楽器を使っての生演奏を聴くこともできます。

おみやげにはバウムクーヘンからできた「Bach-Würfel(バッハのサイコロ)」というお菓子もあるそうです。

アイゼナッハの町はずれには、宗教改革家M.ルターが3か月籠って、新約聖書をドイツ語訳したことで有名な、ヴァルトブルグ城もあります。ユネスコの世界遺産にもなっているお城です。

作曲家R.ワーグナーはこのお城にインスピレーションを受けて、彼の楽劇「タンホイザー」の中にヴァルトブルクの歌合戦の場面を取り入れました。その関係で、ヴァルトブルク城のふもとには、ワーグナー博物館もあります。

このように、バッハだけではなく、ワーグナーやルターとも関係のある町、アイゼナッハ。そんなに遠くはありませんので、是非まだ行ったことのない方は、この町を訪ねてみてください。

#### Bachhaus Eisenach

Frauenplan 21, 99817 Eisenach (毎日10～18時 開館)

#### Reuter- Wagner-Museum

Reuterweg 2, 99817 Eisenach (金・土・日曜日のみ 11～17時 開館)

## ほんのちょっとだけ 演奏会情報

### 和太鼓グループ「Yamato 倭」 アルテオーパー公演

2016年7月8日(金)20時、9日(土)15時と20時  
10日(日)14時